

山岳白書

平成26年中の北アルプス登山者と遭難事故のまとめ



写真：北飛山岳救助隊員 堀畑 浩二

岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会

はじめに



岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会
会長 國島芳明

平成26年4月1日、北アルプス岐阜県側の登山口に念願の「新穂高センター」が開所し、当協議会事務局も同センター内に事務所を移転し、まもなく1年を迎えようとしています。

昨年は、新穂高センターの竣工をはじめ、登山者の救助活動に当たる岐阜県警察山岳警備隊発足50周年、中部山岳国立公園指定80周年といった大きな節目の年を迎えたほか、8月に国民の祝日として「山の日」が制定されました。これからも多くの方に、山に親しみ、山の恩恵に感謝していただく機会が増えることを期待しております。

また、岐阜県において「岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例」を制定し、同年12月1日から登山届の提出が義務化されました。登山者自身による事前準備の徹底など登山者の安全確保を促し、山岳遭難防止につながるものと切に願っております。

一方で、火山噴火災害において戦後最大の死者数を出した御嶽山の噴火など、山の麓に住み自然から多くの恩恵を受けて生活している我々には、忘れることのできない一年でもありました。ここに犠牲になられた多くの方々に謹んで哀悼の意を表します。

北アルプス岐阜県側では、遭難事故51件、遭難者数70人、死者15人、負傷者31人、救出22人を数え、遭難者数では過去最高を記録した一昨年を上回り過去最多となり、死亡事故も過去20年で最多でありました。

特に、遭難者に占める中高年層の割合が全体の81.4パーセントを占め、死亡事故は15人中14人が40歳以上と依然として中高年層の遭難事故が多発していることが顕著でありました。

この北アルプスの大自然は、登山者にとって憧れの山ではありますが、同時に牙を剥けば、自然の猛威が登山者に襲いかかってくる面も併せ持っています。

平成26年中の記録を取りまとめたこの白書が、悲惨な遭難事故の防止にお役立ていただくと同時に、遭難事故の防止・対策を力強く推進する一助としていきたいと考えております。

引き続き、関係の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成27年3月

目 次

第1	登山者の状況	
1	登山者数と過去10年間の推移	1
2	シーズン別及び年齢別等登山者数の状況	2
第2	山岳遭難事故の状況	
1	遭難事故の状況と特徴的傾向	3
2	過去10年間の発生状況	4
3	月別発生状況	4
4	山岳別発生状況	5
5	原因別・遭難者の性別発生状況	5
6	遭難者の山岳会所属状況	6
7	登山届の提出状況	6
8	遭難パーティーの人数構成状況	6
9	遭難者の年齢別状況	7
10	遭難事故の届出状況	7
11	遭難者の職業別状況	8
第3	山岳警備活動の状況	
1	山岳警備活動の概況	8
2	安全登山指導活動の状況	8
3	山岳遭難救助活動の状況	9
4	ヘリコプターの活用状況	11
5	山岳遭難救助訓練の状況	12
6	広報活動等の状況	13
7	手記	14
第4	岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例	
1	登山届提出義務化について	19
2	条例に関する問い合わせ先	19

別表1 平成26年・山岳遭難事発生一覧表

別表2 平成26年・山岳遭難事故発生分布図



第1 登山者の状況

1 登山者数と過去10年間の推移

平成26年中の登山届による岐阜県側からの北アルプスへの登山者は、

19,081パーティー、42,172人

を数え、前年よりパーティー数では2,019パーティー（11.8%）増加、登山者数についても4,552人（12.1%）と、過去最高を記録した。

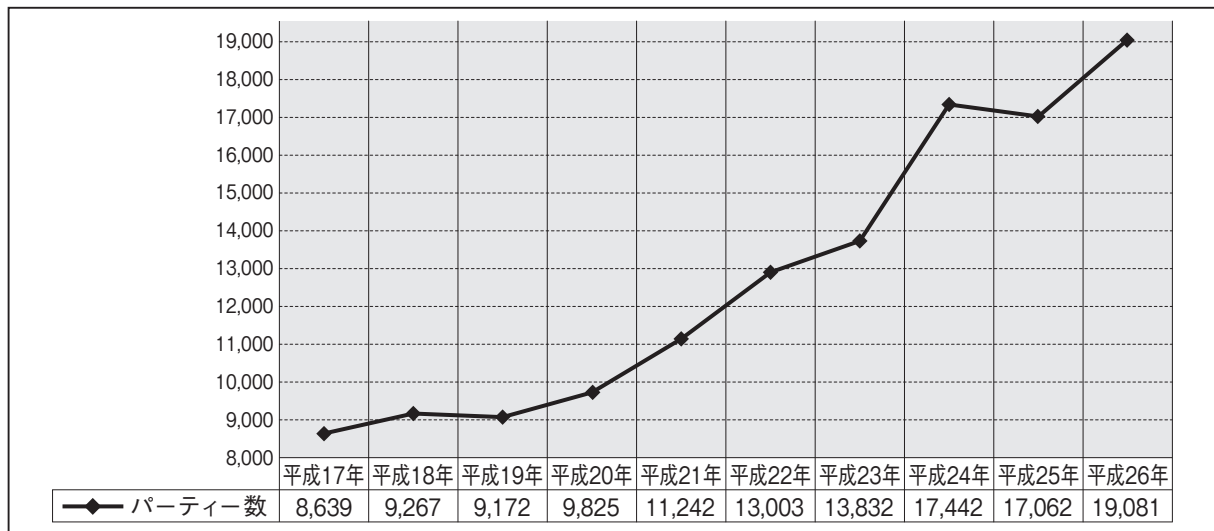
また、このうち単独登山者は、

8,369人（前年比+974人）

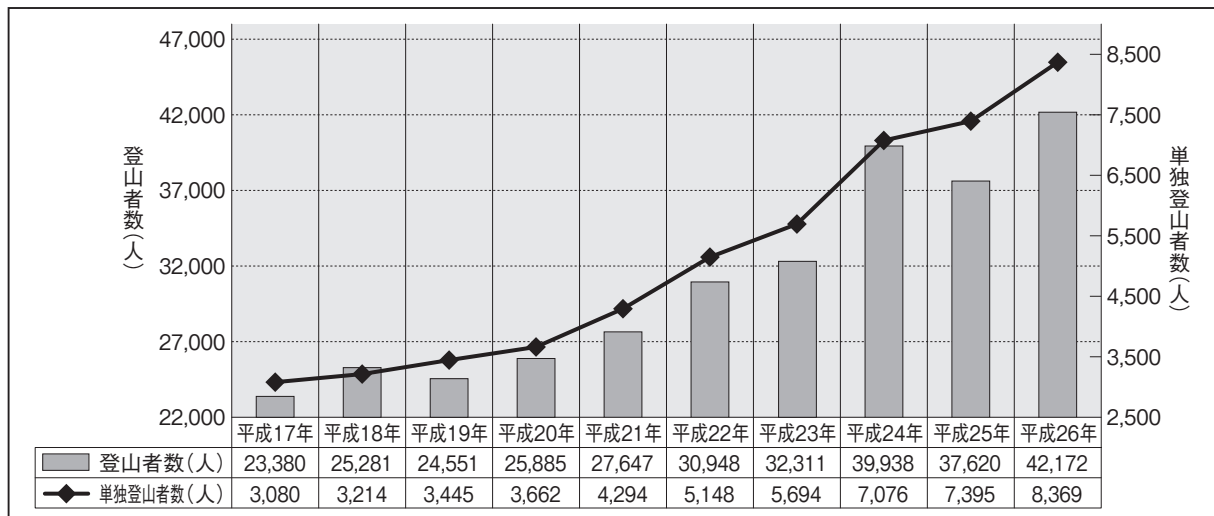
となり、単独登山者数も過去最高を数え、登山者全体に占める割合は17.5%となった。

昨年12月1日から「岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例」が施行され、岐阜県側からの登山には登山届の提出が義務づけられることとなり、意識的に提出する登山者が増加したと思われる。

【パーティー数の推移】



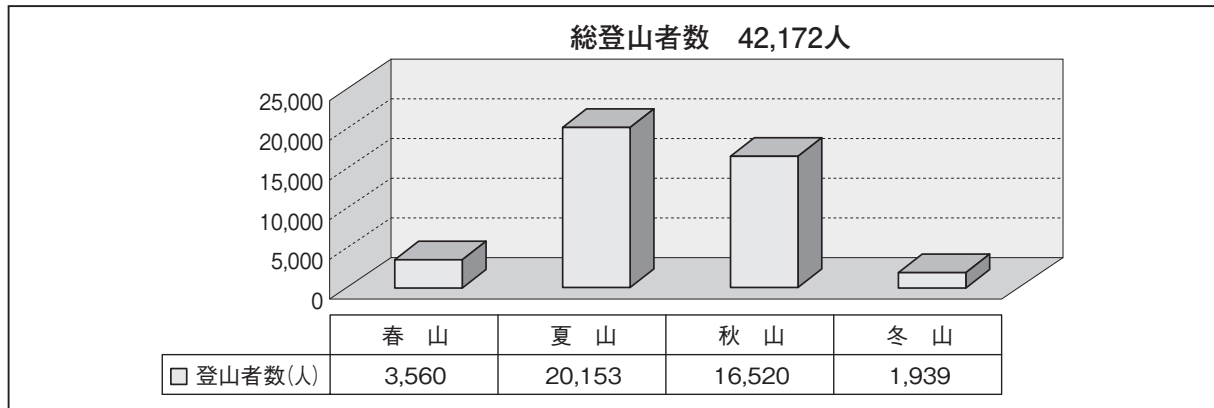
【登山者数の推移】



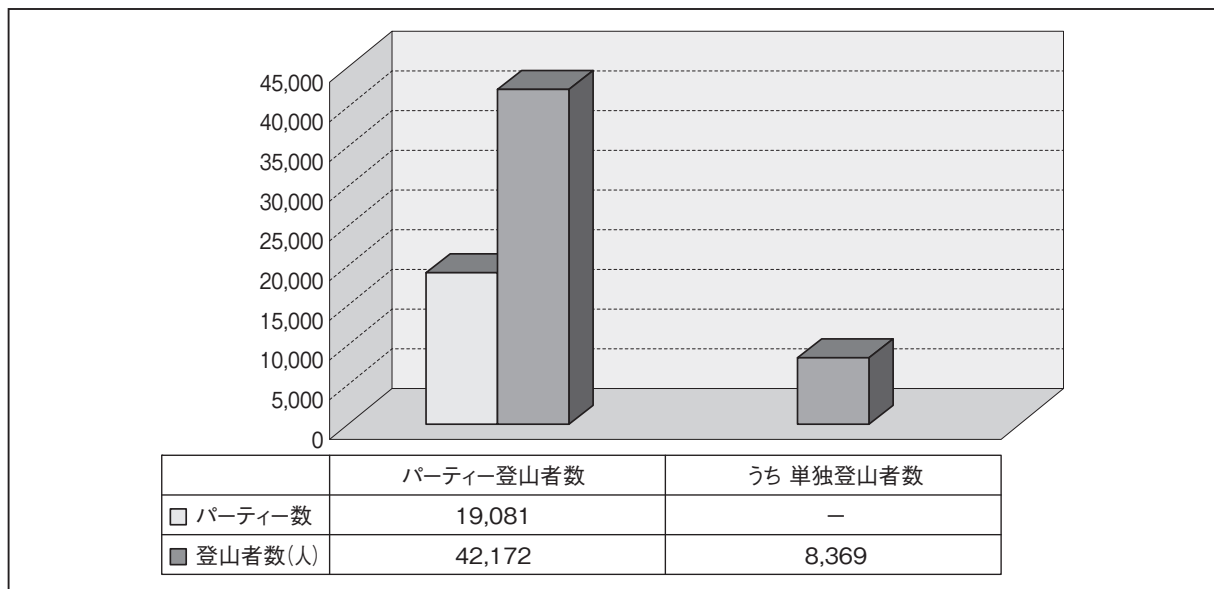
注・パーティー数、登山者数は提出された登山届による。

2 シーズン別及び年齢別等登山者数の状況

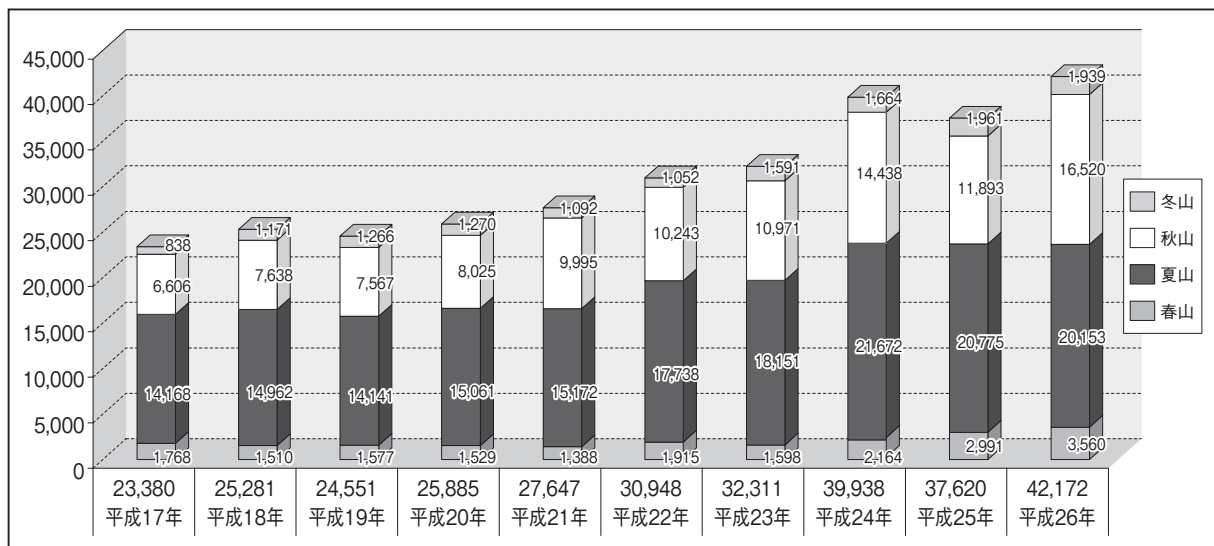
【シーズン別登山者数】



【パーティー・単独登山者別】



【過去10年間の推移】



【年齢別・シーズン別登山者の状況】

(人)

	20未満	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不詳
春山期間中	55	262	679	780	620	487	111	566
夏山期間中	1,353	1,572	2,799	3,161	3,040	3,269	968	3,991
秋山期間中	359	1,156	2,727	3,125	2,759	2,763	760	2,871
冬山期間中	19	182	443	489	329	219	26	232
合計	1,786	3,172	6,648	7,555	6,748	6,738	1,865	7,662
中高年別	11,606 (27.5%)			22,926 (54.3%)				(18.2%)
総合計	42,172人							

第2 山岳遭難事故の状況

1 遭難事故の状況と特徴的傾向

平成26年中の遭難事故は、

発生件数51件(前年比-1件)、遭難者数70人(前年比+6人)

となり、遭難者数については過去最高を記録した。

遭難者の内訳は、

死者15人、行方不明者1人、負傷者31人、無事救出者23人

となった。

遭難事故の特徴としては、

- 遭難者70人のうち57人(81.4%)が、40歳以上の中高年層であった。
- 年代別では、60代が一番多く25人(35.7%)となった。
- 遭難者における男性の割合が54人(77.1%)と高い。
- 単独、2人パーティーの少人数での遭難事故が31件(60.7%)と多い。
- 未組織登山者によるもの37件(72.5%)と高い比率を占めた。
- 遭難事故件数に占める登山届未提出は15件(29.4%)と、未提出率が低かった。

区分	年別	平成26年	平成25年	増減数	増減率(%)
発生件数(件)		51	52	-1	-1.9
遭難者数(人)		70	64	+6	+9.3
内訳	死亡	15	9	+6	+66.6
	行方不明	1	1	0	
	負傷	31	34	-3	-8.8
	無事救出	23	20	+3	+15.0

平成26年中に発生した山岳遭難事故の概要は、別表1「平成26年遭難事故発生一覧表」及び別表2「平成26年山岳遭難事故発生分布図」のとおりである。

2 過去10年間の発生状況

平成26年中は、発生件数51件、遭難者数70人となり、遭難者数では過去最高を記録した昨年と同数となり、死亡事故については、過去20年では最も多発した。

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
発生件数(件)	32	46	48	40	40	44	51	43	52	51
遭難者数(人)	37	56	62	49	45	56	61	53	64	70
内 訳	死 亡	7	14	8	5	12	3	5	9	15
	行方不明	0	1	0	1	1	2	0	1	1
	負 傷	17	24	27	23	17	27	25	30	31
	無事救出	13	17	27	20	15	24	31	14	23

3 月別発生状況

5月中に10件発生し6人が亡くなった。特にゴールデンウィークは悪天候が重なり、6件発生し4人が亡くなる大惨事となった。



区 分		発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				計
季節別	月 別		死 亡	行方不明	負 傷	無事救出	
冬 山	1月	1			1		1
	2月	1				2	2
春 山	3月	2	2				2
	4月	1			1		1
	5月	10	6		5	7	18
夏 山	6月	2			1	1	2
	7月	9	1		6	4	11
	8月	13	5		6	6	17
秋 山	9月	6	1	1	4		6
	10月	4			3	1	4
	11月						
冬 山	12月	2			4	2	6
合 計		51	15	1	31	23	70

4 山岳別発生状況

依然として穂高連峰での遭難事故が多く、穂高連峰で全体の30件(58.8%)が発生しており、死亡事故が15人中14人(93.3%)が穂高連峰となっている。

山域別	区 分	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
			死 亡	行方不明	負 傷	無事救出	計
乗	鞍 岳	1				1	1
焼	岳	2			2		2
割	谷 山	1	1				1
槍 穂 高 連 峰	西 穂 高 岳	11	1		8	3	12
	間 ノ 岳	1				1	1
	奥 穂 高 岳	8	4	1	7	3	15
	酒 沢 岳	4	4		1		5
	北 穂 高 岳	2	4		1		5
	南 岳	1			1		1
	槍 ケ 岳	3	1		1	2	4
奥	丸 山	1			1		1
双	六 岳	2				2	2
弓	折 岳	1				1	1
抜	戸 岳	5			3	3	6
笠	ケ 岳	2			2		2
錫	杖 岳	3			3		3
三 俣 蓮 華 岳	1			1		1	
北 ノ 俣 岳	1					6	6
寺	地 山	1				1	1
	計	51	15	1	31	23	70

5 原因別・遭難者の性別発生状況

遭難者に占める男性の割合が54人(77.1%)と高い。

原因別	区 分	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)					遭難者の性別(人)	
			死 亡	行方不明	負 傷	無事救出	計	男性	女性
転 落 ・ 滑 落	つまづき、スリップ	13	4		10		14	12	2
	バランス崩し	3	2		1		3	1	2
	原因不明	5	3		2		5	5	
転 倒	つまづき、スリップ	3			3		3	1	2
	バランス崩し	1			1		1		1
発 病	心 疾 患	1				1	1	1	
	そ の 他	2				2	2	1	1
落	石	2			2		2	2	
悪	天 候	4			4	6	10	7	3
疲	労	5			1	4	5	4	1
道	迷 い	5	3		1	10	14	12	2
蜂	刺 さ れ	2			2		2	1	1
つ	ま づ き	1			1		1	1	
沢	で 流 さ れ る	1	3		1		4	3	1
そ	の 他	2			2		2	2	
原	因 不 明	1		1			1	1	
	計	51	15	1	31	23	70	54	16

6 遭難者の山岳会所属状況

遭難事故51件のうち、山岳会等に所属していない未組織登山者による遭難事故は37件(72.5%)と高い割合を占めている。

区分 所属別	発生件数 (件)	遭難者数(人)					比率(%)
		死亡	行方不明	負傷	無事救出	計	
社会人山岳会	13	9		9	11	29	41.4
ツアー及びガイド登山	1			1		1	1.4
未組織	37	6	1	21	12	40	57.2
合計	51	15	1	31	23	70	100

7 登山届の提出状況

平成26年中は、遭難事故の半数以上で登山届がきちんと提出されていたが、未提出も15件発生している。平成26年12月1日からは、登山届の提出が義務づけられたことから、今後も周知徹底に努め、継続的な提出呼びかけを行う必要がある。



区分 提出別	発生件数 (件)	遭難者数(人)					計
		死亡	行方不明	負傷	無事救出		
提出	36	12		22	18	52	
未提出	15	3	1	9	5	18	
合計	51	15	1	31	23	70	

8 遭難パーティーの人数構成状況

単独、2人パーティーの少人数で遭難事故が31件(60.7%)と多くなっている。

区分 構成別	発生件数 (件)	遭難者数(人)					計
		死亡	行方不明	負傷	無事救出		
単独	17	6	1	8	2	17	
2人	14			9	8	17	
3人	9	3		7	3	13	
4人	2			4	1	5	
5人							
6人～10人	6	5		2	8	15	
11人以上	3	1		1	1	3	
合計	51	15	1	31	23	70	

9 遭難事故の届出状況

遭難事故発生の一報は、本人から携帯電話による直接救助要請がある他、別の登山者からの目撃情報、家族からの届出等がある。

北アルプス岐阜県側からの登山には登山届の提出が義務づけられることとなったが、他の山域についても、登山者が意識的に登山届を確実に提出することが自身の安全につながる。



届出方法	通 報 者							計(件)
	本人	同行者	一般登山者等	山小屋	家族・職場	警備隊員	所属山岳会	
携 帯 電 話	13	15	4	2	1			35
加 入 電 話					4		3	7
口 頭	5	1	1					7
アマチュア無線								0
その他(目撃等)			2					2
合 計	18	16	7	2	5	0	3	51

注・遭難者の届出方法で計上

10 遭難者の年齢別状況

遭難70人のうち、57人(81.4%)が40歳以上の中高年登山者層によるもので、特に60代で多発した。

最年少は8歳(小学生)で高山病を発症、最高齢は82歳(無職)の行動不能であった。

年齢別	遭 難 者 数 (人)				計(人)	
	死 亡	行方不明	負 傷	無事救出		
20 歳 未 満	1		1		2	13 (18.6%)
20 代	1		3		4	
30 代			2	5	7	
40 代	4		6	1	11	57 (81.4%)
50 代	2		6	3	11	
60 代	6	1	8	10	25	
70 歳 以 上	1		5	4	10	
計	15	1	31	23	70 (100%)	



11 遭難者の職業別状況

遭難者の高齢化に伴い、無職者や主婦層の事故が会社員に次いで多発している。

職業別	区分	遭難者数(人)				計
		死亡	行方不明	負傷	無事救出	
会社役員・会社員		4	1	10	9	24
国家公務員・公務員		3		4	2	9
医者・看護師				1		1
大学教授・教員・保育士		1				1
自営業・家業手伝い				3		3
団体職員・派遣社員				2		2
専門学校生・学生				1		1
パート・アルバイト					2	2
無職・主婦		4		7	9	20
その他		3		3	1	7
合計		15	1	31	23	70

第3 山岳警備活動の状況

1 山岳警備活動の概況

北飛山岳救助隊(岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会附置機関、以下「救助隊」という。)と、岐阜県警察山岳警備隊飛騨方面隊(以下「警備隊」という。)は、共に年間を通して新穂高登山指導センターの開設、山岳パトロール、穂高常駐活動等を実施し、山岳遭難事故の防止を図るとともに、大型連休や遭難事故の発生が予想される時期には、岐阜県警察航空隊(以下「航空隊」という。)の応援・協力を得て、遭難防止に資する山岳情報の収集と遭難者の救助活動に当たっている。

2 安全登山指導活動の状況

(1) 新穂高登山指導センターの開設

北アルプス岐阜県側登山口に当たる新穂高温泉において、各登山シーズン中「登山指導センター」を開設し、登(下)山届の受理、分析、山岳情報の収集・提供等登山者に対する安全指導を実施した。

また、穂高常駐、山岳パトロール、遭難事故出動時における無線中継や各種情報の収集・伝達等に当たる前進基地としての役割を果たしている。



(2) 山岳パトロール活動

登山者の最も多い夏山シーズン中には、北アルプス岐阜県側を中心に山岳パトロールを

実施し、登山者への安全指導、登山ルートの整備、遭難者の救助活動等に当たっている。

また、夏山警備期間中のみならず、ゴールデンウィークや紅葉期等に随時山岳パトロールを実施し、遭難事故防止を図った。

(3) 穂高常駐活動

警備隊は、穂高岳山荘を拠点として、特に険しいルート・地形を持ち、遭難事故の多発する穂高連峰の常駐パトロールを実施し、登山者の安全指導と遭難者の救助活動等に当たるほか、救助隊は穂高連峰のパトロールを実施している。

また、平成25年の年末年始から西穂山荘での常駐活動も開始し、遭難事故防止活動に当たっている。

区分 活動別	延活動日数 (日)	延活動人員(人)		
		救助隊	警備隊	計
登山指導センター常駐	76	118	126	244
山岳パトロール	29	88	38	126
穂高常駐	49		170	170
計	154	206	334	540

3 山岳遭難救助活動の状況

遭難事故1件当たりの平均出動日数は1.35日、平均出動人員は16.1人(救助隊1.7人、警備隊14.3人)となった。

区分 年別	延出動日数 (日)	延活動人員(人)		
		救助隊	警備隊	計
平成22年	60	181	446	627
平成23年	63	112	423	535
平成24年	65	123	574	697
平成25年	64	97	582	679
平成26年	69	89	734	823

【主な活動事例】

- 1月6日、新穂高ロープウェイの写真業者の従業員が山頂駅で工作中、遠目で通常ルートとは異なる西穂高岳小鍋谷を下山している登山者(男性・62歳)に気がつき、設置されている望遠鏡で見たところ登山者と確認、すぐさま警察に通報した。

その後警備隊が合流し、望遠鏡で確認したところ、ザックを放置しビバークしようとしている様子であったため遭難していると思慮、警備隊と航空隊により救助し病院へ搬送した。

救助時、遭難者は精神錯乱の状態であったが一



命を取り留め、左足首骨折の重傷であった。

- 3月30日、単独(男性・60歳)で西穂山荘から焼岳へ向けて縦走していた登山者が「足場が悪く身動きが取れない」と西穂山荘を通じて救助要請。

遭難者は前日に焼岳を目指していたが悪天候で道に迷いビバーク、警備隊及び救助隊山小屋班(西穂山荘従業員)で捜索するも発見に至らず、翌早朝から再び捜索を開始し、天候の回復を待って航空隊も加わり捜索をしていたところ、割谷山の南付近で雪に埋もれ凍死していた遭難者を発見、収容した。



- 5月5日、涸沢岳西尾根を9人パーティーで下山中、先頭を歩いていた1人(男性・19歳)が、標高2,200メートル付近で足を滑らせブドウ谷へ滑落、同行者で付近を捜索していたところ、さらにもう1人(男性・29歳)が滑落し救助要請。

すぐさま、常駐中であった航空隊と警備隊が現場へ急行し捜索を開始、ブドウ谷の標高1,800メートル付近で動かない1人を発見、さらに100メートル下部でもう1人を発見し、現場付近は天候が安定していなかったものの、航空隊と警備隊の連携により、遺体となった2人を収容した。

- 5月5日午後11時頃、3人パーティー(男性・46歳、67歳、45歳)の1人から「下山中に道に迷った」と山岳会に通報があり、山岳会を通じて救助要請。

遭難パーティーは、5月3日に新穂高から入山、5月4日は雪が深く思ったように進むことが出来ずジャンダルム手前でビバーク、5月5日、ジャンダルムから奥穂高岳山頂を目指し、穂高岳山荘へ下山しようと試みたが、吹雪と強風で道を見失い行動不能となり、更に1人がホワイトアウトで見えなくなり、2人で雪洞を掘ってツェルトでしのごうとしたが強風で飛ばされ、寒さで1人が意識朦朧とし始めたため救助要請。

翌早朝から穂高岳山荘に常駐中の警備隊と救助隊山小屋班(穂高岳山荘従業員)で捜索を開始、間違い尾根標高3,000メートル付近で1人生存者を発見、1人を凍死状態で発見した。

また、白出沢を山スキーで下山中の一般登山者から「白出沢で死んでいる人がいる」と通報があり、3人のうちの1人と判明。

折からの悪天候で長野県側でも遭難事故が相次ぎ、長野県警も付近で活動展開中であったことから、生存者の1人は長野県警へりに依頼し救助搬送すると共に、残る2人は警備隊と航空隊により収容した。

- 7月20日、北穂高岳から涸沢岳へ向けて縦走していた登山者が、「ガラガラッ」という音がしたため上を見ると、登山者の20メートルほど先のオダマキのコルの鎖場付近を登っていた単独(男性・46歳)の登



山者が落ちてきて、そのまま岐阜県側に滑落するのを目撃し救助要請。

翌日、警備隊と航空隊により死亡している遭難者を発見し、収容。



- 8月12日、3人パーティーで西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、西穂高岳から間ノ岳方向へ約200メートルの地点で落石があり、落石を避けたものの衝撃で足下が崩れ、他の2人は岩肌にしがみついで難を逃れたが、1人(男性・18歳)の足下の石が大きく動き、そのまま石と共にバランスを崩して滑落したため同行者から救助要請。

一報を受け、独標付近を山岳パトロール中であった救助隊員及び救助隊山小屋班(西穂山荘従業員)がすぐさま現場へ向かい、稜線から約100メートル滑落し頭部に深い傷を負っている遭難者を発見、稜線まで担ぎ上げ、天候の回復を待って航空隊により収容し病院へ搬送。

ヘルメットを被っていたため、頭部骨折等により重傷であったが一命を取り留めた。



- 8月16日、滝谷出合付近で、悪天候により増水していた沢で停滞していた登山者が「渡渉中に女性が沢に流された」と通報。

通報を受け、第1陣で救助隊山小屋班(槍平小屋従業員)が現場へ出動し確認したところ、3人(女性・51歳、男性・67歳、62歳)が流されていることが判明、滝谷出合付近にいた数名の登山者が、当初は水が少量であったことから渡渉を試みたところ、最後の1人が渡渉する際に急激に増水して流され、前後にいた2人も転倒し流されて計3人が行方不明、最後を歩いていた1人は同様に流されたものの岸の方に流れ着き、周囲の登山者に助けられ一命を取り留めた。

折からの悪天候による大雨でヘリコプターでの捜索が不可能であったため、地上から警備隊が捜索するも発見に至らず、翌日から救助隊及び救助隊山小屋班を大量投入し捜索していた所、流された地点から2km下流で2人を発見、しかし、悪天候と濁流で救助できず、翌日、発見した2人を天候が回復し飛来した航空隊により収容、さらに機動隊を投入し空陸一体となって捜索していた所、下流付近で1人を発見、収容した。

- 10月19日、2人パーティーで西穂高岳から下山中、ピラミッドピーク付近で1人(男性・48歳)が滑落。後ろを歩いていた別の登山者が「あー」と声を上げて滑落していく遭難者を目撃し、救助要請。

稜線の同行者及び目撃者が声をかけたところ意識はあり、通報をうけてすぐさま救助活動を展開し警備隊と航空隊により救助、一命は取り留めたものの、頸部骨折等で重傷。



4 ヘリコプターの活用状況

近年の山岳遭難救助活動には、遭難者の一刻も早い救助活動はもちろん、現場の隊員達にとっても、安全で迅速な救助活動に必要不可欠である。

平成26年中の遭難事故における出動回数は、51件中40件(78.4%)と、過半数の遭難事故に出動し、多くの命を救っている。



年 別 \ 区 分	発生件数(件)	ヘリコプター出動件数(件)	出動率(%)
平成22年	44	27	61.4
平成23年	51	27	52.9
平成24年	43	34	79.1
平成25年	52	40	76.9
平成26年	51	40	78.4

※1件で1出動として計上

5 山岳遭難救助訓練の状況

遭難現場での救助活動は、悪天候や夜間に及ぶこともあり、必然的に人力に頼る部分が多くなっていることも事実である。

そのため、そのような厳しい現場において安全で迅速な救助活動を実施するため、救助隊や警備隊は合同訓練を実施する他、縦走訓練、ヘリコプターとの合同訓練、飛騨警察署神岡警部交番庁舎壁面の人工登はん壁を活用した訓練等を実施し、個々の救助技術の向上や登はん技術の向上を図っている。



	種別	実施月	日数	訓練場所	訓練内容
救助隊	冬山	3月	1	西穂高岳	縦走及び遭難者搬送訓練
	夏山	6月	1	西穂高岳・焼岳	縦走及び遭難者搬送訓練
警備隊	冬山	1月	2	西穂高岳・六方山	雪上訓練
		2月	5	奥穂高岳・土倉山等	縦走訓練・雪上訓練
	春山	3月	1	高幡山	雪上訓練
		4月	3	神岡警部交番・野伏ヶ岳他	航空隊合同訓練・新隊員訓練
		5月	4	西穂高岳・大木場ノ辻他	長野県警との合同訓練
	夏山	6月	2	寺地山・乗鞍岳他	縦走訓練
		7月	8	槍ヶ岳・双六岳・笠ヶ岳他	縦走訓練
	秋山	9月	3	西穂高岳・奥穂高岳	縦走訓練
		10月	2	神岡警部交番	登はん訓練
		11月	3	西穂高岳・焼岳他	航空隊合同訓練・縦走訓練
		冬山	12月	3	流葉山・安峰山

6 広報活動等の状況

広報活動	概 要
山岳情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 登山指導センター常駐、山岳パトロール、穂高常駐活動等を通して気象情報、山岳情報を提供 航空隊が撮影した航空写真及び雪崩マップを山岳情報として登山指導センターで活用 インターネットでの山岳情報の提供及び、オンライン提出のメールで登山届を受理
「山岳白書」の発行	<ul style="list-style-type: none"> 各県山岳連盟及び関係機関、団体に送付
山岳情報等広報紙の発行、配布	<ul style="list-style-type: none"> 登山届提出義務化に伴う広報活動 県に協力し、三県危険マップ作成 登山届提出一声運動の実施
啓蒙ポスター、チラシの掲示配布	<ul style="list-style-type: none"> 啓蒙チラシ等を指導センター、登山口の登山ボックス、観光案内所に掲示、配布 英語・韓国語の登山届用紙を、登山指導センターに常備
山岳遭難事故発生場所図面の活用	<ul style="list-style-type: none"> 山岳遭難事故の発生状況を地図上に示し、登山指導センター前の掲示板に表示
危険地域登山者に対する指導・警告活動	<ul style="list-style-type: none"> 県山岳遭難防止対策協議会が危険地域に指定している「滝谷」「穴毛谷」への登山者に対する指導・警告を登山指導センターで実施
小中学校登山への指導員の派遣	<ul style="list-style-type: none"> 高山市北稜中学校の全校登山に指導員を派遣 同栃尾小学校の親子登山に指導員を派遣 同本郷小学校の親子登山に指導員を派遣
その他	<ul style="list-style-type: none"> 山岳雑誌「山と溪谷」、「岳人」への資料提供 テレビ、ラジオ、新聞等広報媒体への資料提供



7 手記



長期にわたる遺体収容

岐阜県警察山岳警備隊飛驒方面隊

高山警察署 谷口 光洋

平成22年1月1日は、大雪警報が発令されていた。

夕方頃に関西地方の山岳会から「山岳会のパーティー3人が、涸沢岳西尾根から奥穂高岳を目指していたが、下山予定日を過ぎても帰ってこず遭難の可能性が高い。」と届出があり、又、同じ頃に北ノ俣岳方面でも大雪によって7人パーティーが自力下山できない旨の届出もあった。我々は同時に2件の遭難事故に対応することとなった。

1月2日は、1日中大雪で行動が出来ず。

年末年始、涸沢岳西尾根には何パーティーも入っていることから、新穂高登山指導センターに提出されている登山届を元に、下山している登山者からの情報収集をすると共に、天候の回復を待って地上部隊とヘリコプターの両方に対応することとなった。

1月3日、雪。捜索はできず。

下山者の情報から、3人パーティーのテントは涸沢岳西尾根の標高2,400メートル付近に張ってあることが判明、そこからの足取りを追ったところ、石川県の山岳会員から「下山中に蒲田富士ピーク辺りで1人の遺体を発見した。」と携帯電話で通報があったが、この日も1日中雪で天候せず行動できなかった。

1月4日、久しぶりの快晴。夜明けと共にヘリが飛んできた。

まず、別件である北ノ俣方面の寺地山で、自力下山できない7人パーティーをヘリで吊り上げる。

7人は、山岳ガイドが募集したパーティーで、全員が元気な様子「ガイドが付いていながらこの程度で救助要請をするのか。」と若い隊員が憤慨し、私も同じような気持ちもあったが、こういうこともたまにはある。

7人全員を鍋平ヘリポートに降ろすとすぐに、逢坂隊員と2人ですぐにヘリに乗り込んで、遺体があるという涸沢岳西尾根蒲田富士ピークとF沢のコルの間辺りにホイスト降下した。

快晴ではあるが、風速15メートル位と常に強い。この辺りは、北側がチビ谷方向へ800メートル位、南側が白出沢方向へ400メートル位スパッと切れ、所々ナイフリッジになっていることから、すぐにザイルを結び合った。

辺りは50センチくらいの新雪で、トレースは全く残っておらず、遺体があっても雪の下で全く分らない。

2人で、トレースのあるだろうと思われる地点をスコップやゾンデ棒を使って捜索するが全く判らない。30分くらい探したが発見できず、すぐにヘリでピックアップされる。

パイロットと検討したところ、通報者がまだ涸沢岳西尾根を下山中であることが判り、

通報者をヘリでピックアップして現場で一緒に捜してもらうことにした。

通報者と携帯で連絡をとり、涸沢岳西尾根下部でホイストで吊上げ、そのまま私と逢坂隊員と3人で蒲田富士ピークに降ろしてもらった。

通報者は、海外遠征登山も多いというベテランの登山者で、初めてのホイスト降下にもかかわらずスムーズに降下でき有り難かった。



通報者は、遭難者の位置をGPSで特定しており、ある程度正確な位置が判ったので、そこを中心にして5メートル位離れたところをスコップで掘ったところ、新雪の中から遭難者を発見することができた。

更に掘ったところ、遭難者は座り込んだような格好で雪に埋もれており、座ったまま仲間を待っていて凍死したのかもしれないと思った。

スコップで全身を掘り出し、遺体を収容袋に納め、吊上げるときにヘリからの風圧で収容袋が回転しないよう、ガイドロープを取り付け準備完了。

ヘリは涸沢岳西尾根一帯を捜索していたので、無線を入れるとすぐに飛来しホイストが降りてきた。

ホイストには鉄の重りが付いているが、強風のため真っ直ぐには降りてこない。

ダウンウオッシュが強く、狭い尾根であることから、まず、自分が転落しないようにザイルで固定、それから収容袋を回転させないようガイドロープを引く。

汗をかきながら遺体を掘り出したので、このダウンウオッシュにより顔面や手袋が一瞬にして凍ってしまったが、なんとか遺体をヘリの中へ収容することができた。

ヘリが再び現場へ戻ってくる間に、他の2人についても近くに居ないか、付近をスコップとゾンデ棒で捜索したが全く判らなかった。

数分でヘリが戻ってきたので、通報者と共にホイストでヘリに乗り込み、残りの2人を探すため涸沢岳西尾根ルートはもちろん、滑落の可能性のあるチビ谷、白出沢、滝谷を捜索したが何の手がかりもない。2人については天候的にも日程的にも生存の可能性が低いことや、この天候もすぐに崩れるということから、その日の捜索を中止した。

1月6日、7日、雪のため捜索できず。

1月8日、再び天候が回復したことからヘリによる捜索を行ったが全く手がかり無し。雪が消えるまで、長い捜索になるであろう。

同日、所属山岳会による地上からの捜索が実施され、標高2,400メートル付近にてテントやカメラの回収が行われた。

カメラに残されていたフィルムから、遭難パーティーの行動は、12月29日に2,400メートル地点でテント泊、12月30日奥穂高岳山頂へアタックし、下山中に遭難したことが判明した。

私達は、残りの2人については定期的にヘリを飛ばして、チビ谷、滝谷、白出沢の捜索を行うことにした。山岳会は、独自に地上から捜索を実施したいとのことであったことから、情報の共有化と山岳会において行方不明者のチラシを作成し、登山者への情報提供を

呼びかけることとなった。

我々は、1週間に1回位の割合でヘリによる捜索を行い、特に雪が融けて木の枝や草が出てくると発見しにくくなるので、5月下旬頃には時間をかけて捜索を行った。

この、ヘリによる捜索というのが思った以上に大変で、パイロットを除いた3~4人が後部左右の窓から捜索するわけであるが、体は横向きで下ばかり見ているので、どうしても気持ち悪くなり、吐き気をもよおす隊員もいる。



おまけに、見逃したら助かる者も助からない、永久に発見されないこともある。

稜線で落ちそうな場所があるなら下方まで目で追っていき、青や赤色等の不自然な色や人間らしき形を探す。自分一人が見落とししたら、その日の捜索は無駄になってしまう。とにかく集中しなければならない。

こんな捜索を続けていたところ、梅雨のまっただ中である6月30日の夕方近くに、チビ谷近くの灌木帯の中に、赤いヤツケの人間らしい者を発見した。

おそらく遭難者に間違いのないと思われるが、稜線から150メートル下部、傾斜が70度位の壁に生えている岳樺、這松の中である。収容に時間がかかりそうであった為、翌日に収容することとした。

7月1日、早朝より収容開始。

現場へは4人の隊員を降ろす予定であったが、現場が急斜面で狭いため、隊員を2人同時に降ろすことができず、1名ずつ下降し2人で収容することとなった。

最初に私が降下したが、遺体付近にピンポイントに降りるには足場が無い。30メートル位上部の這松の中に降りて、這松に掴まりながら岳樺の木まで移動してセルフビレイを取る。

もう1人の隊員も降りた。私の確保を頼んでザイルを頼りに遺体の所へ近づくと、遺体は急斜面の岳樺にセルフビレイを取って転落しないよう工作されており、顔を見ると男性の遺体であった。

また、近くにはザックもあった。この遭難者は滑落ではなく、稜線からこの地点まで自力で降りたのではないかと思われた。

死を覚悟して自分の体が雪崩等に流されないようにセルフビレイを取ったのであろう。その時の遭難者の気持ちを思うと、心が痛む。次は収容だ。

この場所では遺体を収容袋に入れることが出来ない。ザイルを使い、斜め上部へ10メートルほど移動させ這松の中で収容袋に納めた。

この場所は、急斜面ではあるものの落ちそうな岩もなく2人で収容袋に納めるとができた。準備完了の無線を入れたところ、上空で待機していたヘリがホイストで収容してくれた。

ヘリが去ると一段落で、やっと周りの景色を見る余裕が出てきた。

我々の立っている場所は、チングルマの花畑の真ん中で、逢坂隊員が「きれいな場所やけど、二度とここへは来ることは無いやろね。」と言うので「確かに来たくないわな。」と言って笑って答える。

ほどなくヘリが我々の回収に来たので、1人ずつホイストで回収してもらった。

この2人目の遺体の状況から、もう1人もチビ谷におり更に下へ転落していることが予想され、我々も2週間に1回ずつ捜索を実施したが、手がかりは得られなかった。

ただ、300メートル位下方の大滝上部には、厚さ10メートル以上の大雪渓が残っており、蒲田富士辺りから転落したのであれば、この大雪渓まで転落する可能性が高い。ここを中心に捜索を続けることとした。

一方、遭難者の所属する山岳会にあっては、毎週のように地上からの捜索隊を送り1月の発生直後は全部の沢を、2人目が収容されてからはチビ谷上部を中心に捜索しており、ヘリからも山岳会の残したフィックスロープを見ることができ、山岳会も何度かの捜索中に遭難者の所持品を回収しており、残る遭難者は大滝上部の大雪渓の中と目星をつけて捜索していた。

しかし、この雪渓は夏を過ぎてもなかなか消えてくれず、パイロット達も「今年はちっとも雪が融けてくれない。」等と嘆いていた。

9月4日、山岳会の捜索隊から「大滝上部の雪渓の中から遺体を発見した。」との連絡があった。

詳しく状況を聞いてみると、下から雪渓の中へ30メートル位入った所のトンネル状の天井付近に遺体の半分が出ているが、雪渓が薄く天井全体が落ちそうで、自分達ではどうすることも出来なかったとのことであった。

発見してもらえば、後は我々の仕事である。翌9月5日は悪天候。

9月6日早朝より、ヘリで5人の隊員が大滝上部へ向かった。

現場は両壁が切り立っており、近くまでヘリが近づけないため、40メートル位上部からホイストで下降となった。強風の中ヘリはピタリとホバリングしてくれた。

遺体は5メートルくらい上部の天井部分に引っかかっているということで、折りたたみの梯子、氷を切るためのチェーンソー、スコップ等を用意した。この大雪渓は天井上部が50センチ位と薄く、作業中に崩壊する可能性があった。そこで、下部入り口から入ることをやめ、右岸岩壁からロープを固定し、上部入り口まで行ったが、こちらからもやはり雪渓が崩壊しそうで、あまり作業を行わせたくない。かといって、そのまま雪渓が自然崩壊して大水でも出たら遺体は流されてしまう。若い隊員が梯子にのって遺体にザイルを縛り、ザイルを右岸壁に固定した。

こうしておけば、雪渓が崩壊してもザイルを探って行けば遺体を発見できる。

この作業自体も危ない作業ではあるが、予定していた梯子に乗ってチェーンソーを使って氷を切るよりはるかに安全と思われた。

その日は遺体の固定だけで終了したが、雪渓の不安定さと、近づいている台風の大雨からいって、遅くとも1週間も経てば雪渓は崩壊するだろうと思われた。

9月8日は、台風が接近して大雨が降り、良い感じでありもっと降れと願った。

9月9日、ヘリに雪渓を確認してもらったところ、雪渓が崩壊しているとのことであり、



思ったより早く崩壊したので、9月6日に無理をしてチェーンソーで掘り出さなくて良かったとなあ思った。あとは、遺体を掘り出すだけだ。

9月10日、崩壊した雪渓から遺体を掘り出すということで、雪の量が多いため警備隊員に加え、民間の北飛山岳救助隊員と合わせて16人が、チェーンソーやスコップ、ツルハシを持って現場へホイスト降下した。

現場では、固定してあったザイルを頼りに、チェーンソーで雪を切りながら掘るがチェーンソーがあえなく故障、1時間ほどかけ、スコップを使っての手掘りで長さ5メートル深さ2メートルほど掘ったところ遺体を発見、みんなで手を合わせ冥福を祈った後、収容袋に納めた。

遺体の発見時は、遭難者はシュラフに入った状態であり、ビバークをしていてここまで落ちてきたのかもしれない。

まず、ヘリで遺体を収容し、その後数回に分けて全隊員を回収した。

発生から9ヶ月、もう1ヶ月もすれば新雪が降る頃だ。

予想された場所であったが、山岳会の懸命な捜索により発見され、なんとか収容することが出来た。

山岳会は合計20回近くの捜索を行い、日程や資金面など相当な苦労があっただろう。

この発見がなかったら我々もその年の内に収容することが出来なかったかもしれないし、翌年になったら岩の下になっていたかもしれない。

穂高一带には行方不明になっている遭難者も多い。

つくづく、山岳会や山仲間のありがたさを感じる遭難救助活動であった。

以上のように、長期にわたって3人の遺体収容に携わったわけであるが、いずれも非常に厳しい条件の中での収容活動で、我々や山岳会員にも事故や怪我が無くホッとしている。

山岳会の方は、その都度、捜索結果を伝えに何度も交番に立ち寄ってくれ、私も彼らに仲間意識のようなものが芽生えたくらいである。

死者の冥福をお祈りしたい。



第4 岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例

1 登山届提出義務化について

平成26年12月1日に「岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例」が施行され、北アルプス岐阜県側の登山には、登山届の提出が義務付けられました。

また、平成27年4月1日より、活火山(御嶽山及び焼岳の一部)が届出義務化の対象エリアに追加となります。



○登山届の提出方法は下記を参照して下さい。

登山届提出方法	提出先
登山届ポストへの投函 ↓ 【登山届を提出したら】 備え付けの「届出済証」 を持参して登りましょう	(対象エリア内設置場所) <ul style="list-style-type: none"> ・新穂高登山指導センター窓口 ・新穂高ロープウェイ西穂高口駅構内 ・西穂高口登山届出所 ・左俣林道ゲート付近 ・右俣林道起点 ・笠ヶ岳登山口(クリヤ谷ルート) ・焼岳登山口駐車場 
オンラインによる届出 ↓ 【登山届を提出したら】 システムからの返信画面を印刷・保存し携帯して登りましょう	岐阜県北アルプス 山岳遭難対策協議会 ホームページ  コンパス  ※「コンパス」は(公社)日本山岳ガイド協会が運営する登山届受理システムです
関係機関への郵送、 FAX、メール等 ↓ 【登山届を提出したら】 登山届写しを携帯して登りましょう	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県防災課 ・岐阜県警察本部地域部地域課 ・高山警察署及び飛騨警察署並びに、両警察署管内の交番、駐在所 ・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会 オンライン、様式のダウンロード、メールに添付する方法が選択できます。

2 条例に関する問い合わせ先

- ・岐阜県防災課 TEL 058-272-1125
- ・岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例について
 岐阜県庁ホームページ <http://www.pref.gifu.lg.jp/bosai-bohan/sangaku/jourei.html>

平成26年 山岳遭難事故発生一覧表

別表1

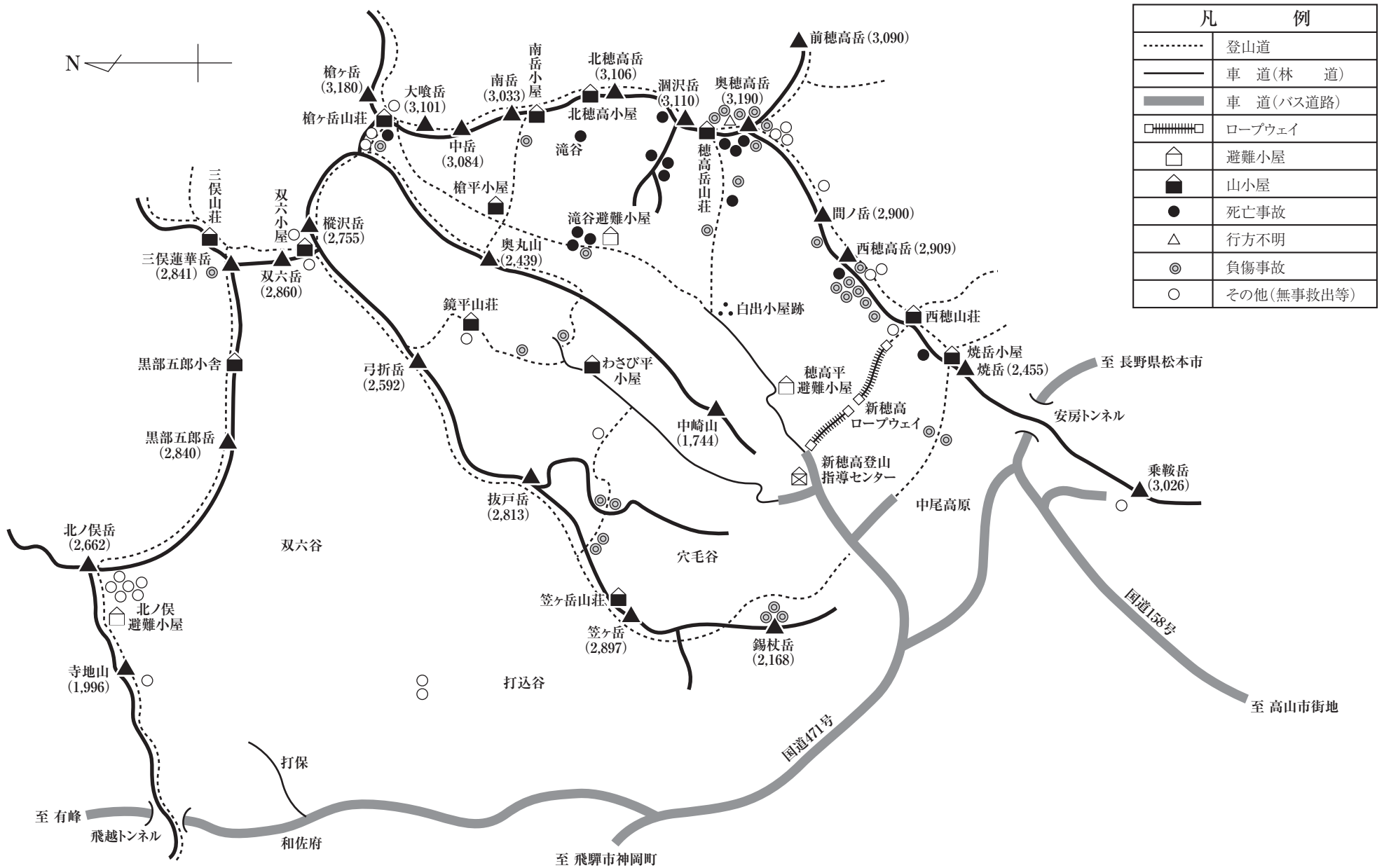
No.	発生日	発生場所	所属山岳会名	構成人員	届出	年齢	性別	職業	住所	死傷別				原因	遭難状況	出動状況				
										死亡	不明	負傷	その他			日数	警備隊	救助隊	その他	ヘリ
1	1月6日	西穂高岳	無所属	単	無	62	男	会社員	大阪府			1		滑落	ロープウェイ山頂駅で働いている従業員が、通常ルートと異なる小鍋谷を下山している登山者を発見し通報。山岳警備隊が確認したところ、ビバークしようとしている様子が見られたため遭難事故と判断し救助。遭難者は稜線から滑落し、低体温などから精神錯乱状態であったが、一命を取り留めた。	1	15			警察
2	2月3日	〃	社会人山岳会	2	無	57 39	男女	会社役員 会社員	東京都 東京都				2	悪天候	「ピラミッドピーク付近で2人が行動不能となった」と所属山岳会を通じて救助要請。動かなければ寒さで生命に危険が及ぶと判断、稜線沿いを下るよう指示すると共に警備隊も救助に向った。その後、ルートに戻ることができた2人も自力下山を試み、丸山付近で警備隊と接触し西穂山荘へ収容。	1	9			
3	3月22日	涸沢岳	〃	3	有	65	男	無職	兵庫県	1				滑落	3人パーティーで涸沢岳から下山中、西尾根の標高約2,700メートル付近の岩稜帯で1人がスリップして滑落し、同行者から救助要請。翌日、鉾石沢の標高2,100メートル付近で発見、収容。	2	22			警察
4	3月30日	割谷山	無所属	単	有	60	男	会社員	千葉県	1				道迷い	単独で入山し、西穂山荘から焼岳を目指していたが、天候不良により途中で引き返すも道に迷い救助要請。その後、山小屋従業員及び山岳警備隊員で捜索するも発見に至らず、翌日から航空隊も加わり捜索していたところ、航空隊が遭難者を発見、収容。	2	28	4		警察
5	4月26日	西穂高岳	〃	単	有	26	男	家業手伝い	神奈川県			1		滑落	単独で西穂山荘から西穂高岳へ向けて登山中、山頂とピラミッドピークの間でアイゼンが滑り約500メートル滑落し、本人が救助要請。	1	12			警察
6	5月3日	寺地山	〃	単	無	61	男	会社員	富山県				1	道迷い	家族から「帰宅予定時間を過ぎてても帰ってこない」と届出があり、翌早朝から捜索を開始したところ、寺地山付近で発見し救助。	1	16			警察
7	5月4日	槍ヶ岳	〃	2	有	46	女	会社員	兵庫県			1		滑落	夫婦2人パーティーで槍ヶ岳から下山中、アイゼンを装着していたものの、雪で足が滑り約100メートル滑落し骨折。	1	7		1	警察
8	〃	西穂高岳	〃	2	有	52	男	会社員	埼玉県			1		その他	バトロール中の西穂山荘従業員が、背負われている遭難者を発見し声を掛けたところ「足が痛くて歩けない」と申し出たことから救助要請。遭難者は尻セードで降りていたところ穴に足を引っかけてつまづき、足を骨折したものの。	1	7	2	1	警察
9	5月5日	涸沢岳	大学山岳部	9	有	19 29	男 男	大学生 公務員	神奈川県 神奈川県	2				滑落	9人パーティーで涸沢岳西尾根を下山中、先頭を歩いていた1人が滑落したため、同行者で付近を捜索中していたところ、もう1人がさらに滑落したため救助要請。	1	13			警察
10	〃	奥穂高岳	社会人山岳会	3	有	45 68 46	男 男 男	自営業 接骨院 銀行員	茨城県 茨城県 茨城県	2		1		道迷い	3人パーティーで入山し、奥穂高岳間違い尾根付近で遭難者本人から「道に迷った」と救助要請。翌日、捜索を開始したところ、通報者は生存していたものの死亡している2人を発見し収容。	2	23			警察
11	5月6日	北ノ俣岳	〃	6	有	69 64 68 69 67 35	男 男 男 女 男 女	無職 会社員 無職 パート 無職 公務員	埼玉県 埼玉県 埼玉県 埼玉県 東京都 埼玉県				6	道迷い	帰宅予定を過ぎてても帰らないと家族から届出があり、捜索を開始したところ北ノ俣避難小屋付近で発見したが、自力下山が出来るとの申出で6人全員が自力下山。パーティーは、太郎平小屋を出発後、北ノ俣避難小屋付近で悪天候により道に迷いビバークし下山が遅れたもの。	1	5		5	富山 防災
12	5月10日	焼岳	〃	3	有	74	男	無職	神奈川県			1		滑落	3人パーティーで下山中、途中でルートを誤り引き返していたところ、1人がスリップして約10メートル滑落して動けなくなり救助要請。	1	14	11	2	
13	5月16日	奥穂高岳	無所属	単	無	48	男	公務員	兵庫県	1				滑落	穂高岳山荘へ向けて登山中の一般登山者が、白出沢で倒れている遭難者を発見し救助要請。	1	12	2		警察
14	5月17日	〃	〃	2	無	56	男	公務員	兵庫県				1	滑落	2人パーティーで飛騨尾根を登山中、雪でスリップして約30メートル滑落。同行者が20メートル遭難者を引き上げたが首の痛みで行動不能となり救助要請。頭部、頸椎骨折で重症。	1	12			警察
15	5月30日	槍ヶ岳	〃	単	無	57	男	大学教授	香川県	1				滑落	単独で槍ヶ岳へ登山、翌朝、大喰岳付近で写真撮影中になんらかの原因で飛騨沢へ滑落し死亡。下山中の山小屋従業員が発見し通報。	1	12	4		警察
16	6月2日	乗鞍岳	〃	9	有	72	男	無職	岐阜県			1		発病 (心疾患)	9人パーティーで五色ヶ原トレッキングに参加中、自然歩道で立ち上ろうとしたところ、胸の痛みと共に2,3分気を失い異常に気がついたガイドから救助要請。	1			7	防災

17	6月29日	笠ヶ岳	〃	単	有	49	男	会社員	岐阜県		1	滑落	単独で笠ヶ岳から下山中、笠新道手前の下り坂稜線で足を滑らせ滑落、滑落停止をしたものの止まらず、岩で頭部を殴打しハイマツ帯で停止。顔面骨折するも自力で下山し、救急車にて搬送。	1	3			
18	7月5日	抜戸岳	〃	単	有	49	男	公務員	神奈川県		1	滑落	2人パーティーで笠ヶ岳に向けて登山中、1人はアイゼンが壊れ下山、1人はそのまま登山を継続し笠ヶ岳山荘で宿泊。翌日、下山中に稜線からの降り口が分らず、雪溪の斜面を降り始めたところで足を滑らせ滑落。落ちた場所の斜度がきつ自力での移動ができないため救助要請。	1	11	2	警察	
19	7月9日	南岳	〃	単	無	58	男	無職	大韓民国		1	滑落	単独で上高地から入山、その日の内に下山しようとして道に迷い、小屋らしき物が見えたことから下りようとして約10メートル滑落し左手首を骨折。携帯の電波が繋がらないことから、繋がる場所を探している内にさらに道に迷い、電波の通じる場所に出てから韓国総領事館へ救助を求め、翌日捜索中のヘリにて発見。	1	18	3	警察	
20	7月18日	焼岳	ツアー登山	19	有	79	男	会社員	和歌山県		1	転倒	ツアー19人で登山中、登山道上の丸太を乗り越えようとして転倒し、頭などを打って負傷し救助要請。	1	8	1	3	
21	7月20日	涸沢岳	無所属	単	有	46	男	会計士	兵庫県	1		滑落	遭難者の後方を歩いていた別の登山者が、「ガラガラ」と音がしたため上を見ると遭難者が岐阜県側に滑落していくのを目撃し、救助要請。	2	21		2	警察
22	7月21日	奥穂高岳	〃	3	無	22	男	学生	大阪府		1	その他	山荘のテラスで高いところから飛び降り着地した際、バランスを崩して左膝を捻挫。受傷後しばらく様子を見ていたが、痛みが引かないため救助要請。	1	11			警察
23	7月24日	奥穂高岳	〃	3	有	36 32 32	男 男 男	会社員 国家公務員 会社員	愛知県 東京都 東京都		3	道迷い	3人パーティーで登山中、2人と別れ単独で前穂高岳を目指し、途中で別の2人と一緒になり奥穂高岳へ向かったが、悪天候により道を間違えてジャンダルム方面へ迷い込み、体力の消耗などから行動不能となり救助要請。	1	6			
24	7月26日	双六岳	社会人山岳会	11	有	71	女	無職	新潟県		1	発病	双六小屋従業員から「体調を崩して動けない登山者がいる」と救助要請。	1	10	1		警察
25	7月31日	西穂高岳	無所属	単	有	76	男	評論家	神奈川県		1	落石	単独で登山中、独標付近で自然落石に遭い左目瞼上部を裂創、山荘従業員が止血をするも持病の薬の影響で血が止まらず、自力下山が不能となり救助要請。	1	12	2		警察
26	〃	抜戸岳	〃	2	有	67	女	無職	東京都		1	転倒	夫と2人で下山中、小池新道付近で荒天となり、秩父沢を渡渉直後に近くで落雷があったため怯え、足元が滑って転倒し頭部に裂傷を負い、下山時間も遅くなったことから救助要請。	1	4	2		
27	8月3日	抜戸岳	〃	単	有	66	男	会社員	愛知県		1	疲労	双六小屋から「単独登山者が膝に力が入らず動けなくなった」と救助要請。天候が悪く、ヘリでの救助が見込めないことから、警備隊、救助隊で背負い搬送で救助。	1	4	7		
28	8月4日	間ノ岳	〃	2	有	61	男	無職	新潟県		1	発病	2人パーティーの1人が間ノ岳付近で「低体温症になり動けない」と救助要請。前日に、西穂山荘から奥穂高岳を目指すも体調不良のため天狗の頭でビバークし、翌日西穂へ下山を試みるも、間ノ岳山頂付近で歩行困難となったもの。	1	23	8	1	警察
29	8月5日	抜戸岳	〃	単	有	72	男	無職	神奈川県		1	疲労	単独で鏡平山荘に一泊し、笠ヶ岳往復の予定で登山を開始したが予定よりも時間がかかり、午後3時半から下山を開始。午後9時になっても杓子平から1時間くらい下った地点で、ヘッドランプの電池も切れ救助要請。その後、荷物を取ろうとした際に誤って転倒し負傷。	2	7	4		
30	8月8日	三俣蓮華岳	〃	2	有	45	女	会社員	神奈川県		1	転倒	2人パーティーで登山中、展望ベンチ付近で熊に遭遇したためストックで威嚇しようとして転倒、その際、左足を骨折し自力で双六小屋までたどり着いたがその後の自力下山が不可能となり救助要請。	2	16			警察
31	8月12日	西穂高岳	〃	3	有	18	男	国家公務員	大分県		1	落石	3人パーティーで縦走中、バレーボール大の落石があったため避けたところ、落石の衝撃で足下が崩れ、2人は岩肌にしがみついたが、1人が石と共にバランスを崩し約100メートル滑落し、同行者から救助要請。	1	13	4		警察
32	8月13日	双六岳	無所属	2	有	55	男	会社員	岐阜県		1	発病	2人パーティーで登山中、悪寒を感じたものの登山を継続、双六小屋まで来たところ体調不良が悪化し、酸素吸引や点滴をうったが血中酸素濃度もあがらなかったため救助要請。	1	11	1		警察
33	8月16日	北穂高岳	社会人山岳会	7	有	67 62 51 56	男 男 女 男	無職 会社員 薬局経営 薬剤師	広島県 広島県 福井県 福井県	3	1	その他	目撃していた別の登山者から「滝谷合出で渡渉中に人が流された」と通報があり、槍平小屋従業員が現場にて確認したところ3人が流されていることが判明。滝谷合出付近にいた数名の登山者が、水が出ていたものの少量であったことから渡渉を試みたところ、最後の1人が渡渉する際に急激に増水し流れ、前後にいた2人も転倒し流れられ行方不明となった。もう1人は川岸の岩を掴み他の登山者に助けられ一命を取り留めた。	3	60	26		警察

34	8月17日	抜戸岳	〃	2	無	57 49	男 男	司法書士 会社員	東京都 東京都			2	悪天候	沢登りのため、2人パーティーで金木戸川の広河原から入渓、3日目に天候が悪化し高台でビバークしていたが、4日目から川の増水で身動きがとれなくなり、さらに2泊停滞し行動不能となっていた所、山岳会仲間からの通報で捜索していた航空隊により発見。	1	10			警察
35	8月18日	弓折岳	無所属	4	有	73	女	無職	群馬県			1	発病 (高山病)	4人パーティーで双六岳へ向けて入山したが、鏡平山荘で宿泊後に1人の体調が悪く歩行困難となり、双六小屋診療所の看護師と山岳警備隊が双六小屋から下山し様子を見たものの様態が回復しないことから救助要請。	1	11		1	警察
36	8月21日	北穂高岳	〃	単	無	43	男	会社員	東京都	1			滑落	家族から「息子と連絡がとれない」と届出があり、捜索中の長野県警ヘリが岐阜県側の滝谷において稜線から滑落している遭難者を発見。	3	34			警察
37	8月29日	錫杖岳	〃	3	有	65	女	自営業	東京都			1	その他 (蜂に刺され)	錫杖岳岩小屋付近で、遭難者が蜂に4カ所刺され登山を断念し休憩をしていたが、徐々に気分が悪くなり救助要請。	1	1		5	富山 防災
38	8月30日	西穂高岳	社会人山岳会	14	有	68	女	無職	茨城県	1			滑落	14人パーティーで入山し、3人は独標で引き返し残り11人で西穂高岳を目指していた所、第7峰と第8峰の間付近でバランスを崩し約100メートル滑落。	1	20			警察
39	8月31日	〃	無所属	8	無	67	女	無職	千葉県			1	滑落	8人パーティーで登山中、5人は独標で引き返し、3人で西穂高岳へ向かっていた所、独標とピラミッドピーク間のコル付近でバランスを崩し滑落。	1	17	2		警察
40	9月4日	涸沢岳	〃	単	無	67	男	無職	大阪府			1	転落	単独で穂高岳山荘から下山中、岩切を下った重太郎橋脇のハシゴ場で、足を踏み出したところ雨で濡れていた岩場で滑り約7～8メートル転落。目撃していた別の登山者が救助要請。	1	12	1	3	
41	9月7日	笠ヶ岳	〃	3	有	33	女	看護師	長野県			1	転倒	3人パーティーで笠ヶ岳からの下山中、杓子平付近で足を滑らせ転倒し左足を骨折し本人から救助要請。	1	10			警察
42	9月10日	奥穂高岳	〃	単	有	71	男	無職	福井県	1			滑落	単独で登山中、小屋で知り合った男性と行動を共にして奥穂高岳から西穂高岳へ向けて縦走していたところ、ジャンダルムとロバの耳間のコル付近で、後方を歩いていた登山者が「あっ」と声を上げたため振り返ると、そのまま岐阜県側へ滑落していくのを目撃し救助要請。	1	17			長野 県警
43	9月11日	〃	〃	単	有	62	男	会社員	神奈川県	1			不明	会社へ出勤しないことから家族へ連絡があり、岐阜県側へ登山届が出され、山小屋に宿泊事実があったため遭難事故と思慮、捜索するも発見に至らず。	3	24			警察
44	9月14日	錫杖岳	社会人山岳会	2	無	35	男	無職	静岡県			1	その他 (蜂に刺され)	2人パーティーで登山中、錫杖沢の出会いから約100メートルほど登った沢沿いの敷道で、笹藪の中からクロスズメバチの群れが飛び出し、全身を数カ所刺され救助要請。	1	9			警察
45	〃	西穂高岳	無所属	2	無	61	女	団体職員	神奈川県			1	滑落	2人パーティーで奥穂高岳から西穂高岳へ向けて縦走中、独標北側直下の鞍部付近で足を滑らせ滑落。同行者が捜索したところ、稜線から100メートル滑落している遭難者を発見し救助要請。	2	12			警察
46	10月8日	〃	〃	10	有	81	男	無職	大阪府			1	疲労	10人で西穂高岳山頂駅まで来たところ、天気の良いため西穂山荘まで登山、その後下山途中で1人が疲労で動けなくなり、休憩しても動けなかったことから救助要請。	1	6	2	2	
47	10月12日	錫杖岳	社会人山岳会	3	無	57	男	団体職員	大阪府			1	滑落	3人パーティーで錫杖でクライミングを開始したが、1人が足を滑らせ約10メートル滑落して左足の指を骨折、自力歩行が困難となり救助要請。	1	8			警察
48	10月19日	奥丸山	無所属	2	有	71	男	無職	岐阜県			1	転倒	2人パーティーで奥丸山へ向けて登山中、登山道脇のガイドロープをまたいだ際に足を引っかけて転倒、前頭部を強打し救助要請。	1	3		4	
49	〃	西穂高岳	〃	2	有	48	男	会社員	大阪府			1	滑落	2人パーティーで西穂高岳から下山中、ピラミッドピーク付近で何らかの原因で滑落、目撃者が救助要請。	1	11		1	警察
50	12月31日	槍ヶ岳	〃	2	有	64 62	男女	パート 主婦	三重県 三重県			2	悪天候	夫婦2人パーティーで槍ヶ岳へ登山中、降雪で思うように進まずテント泊、登頂を断念し下山を開始しようと思ったが、かなりの積雪量の為、自力下山が不能と判断し救助要請。悪天候でヘリの救助が見込めなかった所、2人は槍平避難小屋へ自力で下山、槍平避難小屋一泊し、翌日別のグループと共に新穂高へ下山。	2	17			警察
51	〃	奥穂高岳	社会人山岳会	4	有	66 64 53 25	男女 男	建設業 臨時職員 公務員 会社員	高知県 高知県 高知県 徳島県			4	悪天候	4人パーティーで西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、奥穂高岳山頂付近で道に迷い、更に1人が滑落し歩行不能となり救助要請。雪洞を掘り3日間ビバーク、そののち自力で穂高岳山荘避難小屋まで下山。救助要請から航空隊により救助を試みるも、強風のため断念。1月5日、天候の回復を待って4人を救助し、病院へ搬送した。	5	67			警察
遭難事故発生件数 51 / 遭難者数 70 人										15	1	31	23		69	734	89	38	

平成 26 年 山岳遭難事故発生分布図

別表 2



編集後記

事務所の移転が正式に決まってから、新天地でのスタートをあれこれ考えると、正直どうなるのか心配でしたが、周囲の皆様のご支援により何とかやって来られました。

まだまだ小さいことから大きな事まで、課題や問題はたくさんありますが、目に見えないところで助けて下さる方々に感謝し、昔からの恩を忘れることのないよう気持ちを新たにしたいと思います。

また、去年は色々な行事や出来事が重なり、時間の流れがとてつもなく早く感じた1年でした。

特に御嶽山の噴火は、焼岳や乗鞍岳を抱える私達にとって、自然の驚異を見せつけられ、人間の非力さを痛感した出来事でした。

改めて犠牲となられた方々のご冥福をお祈り致しますと共に、これからも登山者の皆様が、安全で安心な山登りが出来ることを祈念致します。

事務局 中畠 美奈子

山岳白書

発行 平成27年2月

発行者 國島 芳明

編集責任者 中畠 美奈子

発行所 岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会

URL <http://www.kitaalpsgifu.jp/>

印刷所 高山印刷株式会社

